

令和3年度

学生 FD CHAmmiT

学部提案書に基づく改善報告書

令和3年11月28日（日）に開催された学生FD CHAmmiTにて、学生、教員、職員が三位一体となって以下の3点について議論を行い、学部提案書を作成しました。

- ①昨年度（令和2年度）報告書の状況について
- ②新たな課題について
- ③「IT化と大学教育」へ向けての提案について

その上で、令和4年4月1日現在の対応状況として、「改善報告書」を作成しましたので、ご報告いたします。

【参考URL】 日本大学 学生 FD CHAmmiT
<https://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/fd/fd-chammit/>

令和3年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

【経済学部】

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和4年3月8日	参加学生1名、スタッフ学生2名、教員2名、職員2名でZoomを利用し、学部提案書について1時間15分程度ミーティングを行った。その後、意見を取りまとめ、改善報告書を作成し、参加学生、スタッフ学生、教員、職員とメール共有を行った。

2 学部提案書の対応について

① 昨年度報告書の状況

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
対面授業を増加して欲しい		○		令和3年度は授業形式に「同時双方向型」、「オンデマンド型」の他に一定の基準を設け「部分対面型」の授業を取り入れました。これによりゼミナール科目や体育科目、語学科目等の一部科目で対面授業が行われました。令和4年度の授業方針は一部科目を除き「対面」授業を実施する予定です。
全体的な課題の量を削減			○	令和2年度11月に行われた教員のFDディスカッションにおいて、学生の4割が「課題が多いと感じている」ことを共有しました。令和3年度に実施した学生の授業アンケートによれば、「この授業科目を1週(回)受けるに当たり、授業時間以外で学修(予習、復習、課題等)にどれくらい取り組みましたか」の設問に対し、「1~2時間」、「1時間未満」の割合は合わせて約70%となっています。単位を修得するためには授業時間以外に事前事後学習を行うことは不可欠です。多くの科目で1回の授業当たりの事前事後学習時間は4時間となっており、時間数についてはシラバスに明記されております。これを踏まえると現在の課題の量は多すぎるとは必ずしも言えず、課題の量をこれ以上削減することを目指すべきではないと判断できます。

② 新たな課題

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
通信設備等の見直しを図って欲しい	○			学内全域でWi-Fiを使用することが出来ます。また、PCコーナーや図書館内のパソコンは学生であればだれでも使用することが可能です。
課題を提出するシステムを統一化して欲しい		○		課題を提出するシステムは大きく分けて2つあります。1つはEcoLink、もう1つはGoogle Classroomです。本学部のLMS(学習管理システム)としてはEcoLinkとなりますが、使い勝手によりGoogle Classroomを使用している授業もあります。これについてはEcoLinkの機能をより充実させているところであり、今後統一化を目指せると考えております。
教員-学生間の連絡手段を統一化して欲しい		○		教員-学生間の連絡手段としては、EcoLinkメッセージ機能と日本大学のアカウントによるメールの2つとなります。なお、教員のメールアドレスは公開されておりませんので、基本的にはEcoLinkによるメッセージ機能を使用することになりますが、学生への周知が徹底されている場合にメールアドレスを使用してやり取りをすることが出来ます。また、令和3年度にEcoLink自体を変更し、さらにブラッシュアップを続けているところとなりますので、より分かりやすくなるのが期待されます。
ハイブリッド型の講義を受講する場合、対面で授業に出席した学生は授業外で直接教員とコミュニケーションをとることができ、オンライン参加の学生からすると授業の理解度の差に不公平さを感じる		○		メールやEcoLinkでのメッセージでは直接会話する場合と比べ限界は確かにあるかもしれません。令和4年度は原則「対面」で授業を行いますので、授業前、授業後やオフィスの時間を活用してください。
例えば1限が対面授業、2限がZoomによるオンライン授業の場合、2限の授業に遅刻してしまう	○			そのような場合の対応方法として学内のWi-Fiを利用したり、PCコーナー等を利用することが考えられます。また、令和4年度は原則「対面」で授業を行うので、そのようなことは起こらないのではないかと考えます。

令和3年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

【経済学部】

③ 「IT化と大学教育」へ向けての提案について

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
ハイブリッド型授業をする際など、通信環境に限界を感じる。通信設備等の改修を行うことで学生、教員ともに快適な学校生活を送ることが可能になる。	○			前述②「通信設備等の見直しを図って欲しい」と同回答となります。 学内全域でWi-Fiを使用することが出来ます。 また、PCコーナーや図書館内のパソコンは学生であればだれでも使用することが可能です。
出席管理システム（キャンパス手帳）をもっと使用する機会を増やす		○		出席管理システム（キャンパス手帳）を令和3年後期から「部分対面」授業を行う授業で開始しました。 前述①「対面授業の増加について」に記載しましたが、令和3年度に実施した科目でこの形式の授業は一部となりましたが、令和4年度の授業は原則「対面」で行いますので、どの授業でも出席管理システム（キャンパス手帳）を使用することになる予定です。
授業課題のファイル形式や容量に左右されないシステムにして欲しい		○		確かに、経済学部のEcoLinkではファイルの容量が大きいとアップロードできない等の問題があります。そのためGoogleDriveやYoutubeの活用も併せて行ってきました。 問題が解消されているとは言えないものの、技術面では教員を対象として教材作成支援を令和3年度に引き続き令和4年度も行っていきます。
教員からの視点として、連絡手段を統一すると学生からの質問へのレスポンスが早くなりやすい		○		教員は基本的にはEcoLinkの機能を使用いただければと思います。 EcoLinkの改修を行っているところですので、利便性が良くなることが期待されると思料いたします。また、令和4年度は「対面」授業ですので、授業前後やオフィスパワーの時間に対応してください。
教員からの視点として、授業に対する学生のリアクションや実際に課題に取り組んでいるかどうかの可視化	○			オンライン授業では、「対面」授業のように、学生が教員の説明を理解しているかどうか反応を見ながら進めるというのは難しいことかもしれません。 令和4年度は原則「対面」授業となりますので、可視化することが出来るようになるかと思料いたします。さらに学生の反応に加え課題の出来不出来を見て授業を進めることが出来ます。また、このようなことは経済学部FDディスカッションを通じて情報共有もされました。
課題等に関する何かしらの上限を設ける。			○	前述①「全体的な課題の量を削減」に記載のとおりです。
シラバスに授業形態を明示することを継続する	○			令和3年度のシラバスでは「同時双方向型」、「オンデマンド型」、「部分対面型」のいずれかを記載しました。 令和4年度は一部を除きすべての授業で「対面」授業となります。
対面講義ができるなら、同時双方向型の講義は廃止する。		○		同時双方向型の授業があると前述②「例えば1限が対面授業、2限がZoomによるオンライン授業の場合、2限の授業に遅刻してしまう」ということが起こりえますので、一部科目でオンライン授業を行う際にはそのようなことがないように考えています。
オフィスパワーを改めて周知する。	○			オフィスパワーとは学生から授業に関する質問、相談等を行うことのできる時間です。シラバスに記載されているので確認してください。
オフィスパワー以外でも教員に質問できる環境を整える。	○			EcoLinkのメッセージ機能を活用してください。

※①～③については、令和4年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。

3 経済学部から学生へのメッセージ

IT化と大学教育に関するご意見を多数頂き、ありがとうございました。
令和4年度からは対面授業が本格的に再開されます。学生の皆様にとってよりよい学修環境が整えられるよう、経済学部は今後も真摯に取り組んで参ります。